

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/5)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	ハシモト カズヤ 橋本 和也
学歴	昭和53年 3月 國學院大学文学部文学科卒業 昭和53年 4月 埼玉大学教養学部文化人類学講座聴講生 昭和56年 3月 大阪大学大学院博士課程前期 人間科学研究科人間学専攻修了 昭和62年 3月 大阪大学大学院博士課程後期単位取得後満期退学				
学位	昭和56年 3月 人間学修士 (大阪大学) 平成 7年 3月 人間科学博士(大阪大学 第11935号)				
専門分野	文化人類学 (フィジー諸島 観光、キリスト教、スポーツ、政治変動に関する研究)				
専門資格	専門社会調査士 (000358号)				
所属学会	昭和54年 4月 日本文化人類学会 (評議員 「平16-20, 平22- 26」) 昭和62年 4月 日本オセアニア学会 (評議員 「平18-22」) 平成13年 日本スポーツ人類学会 平成24年 2月 観光学術学会 (副会長・平24-26、会長・平26年7月-)				
受賞					
担当授業科目	学 部 文化人類学演習 ・ 、卒業研究演習 ・ 、卒業論文、観光文化論、現代観光論、初年次演習、総合社会学基礎演習、総合社会学実習C、 大学院 文化人類学基礎研究法演習 、文化人類学研究法演習 、現代文化研究 (観光・地域開発論)、現代文化研究演習 (観光・地域開発論)				
論文指導	論文指導担当[主査] (卒論 : 1名、修士論文 : 0名) 論文審査担当[副査] (修士論文 : 1名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	総合社会学実習C	講義・演習・実習・実験	春・秋	7名	
	授業の概要: 観光・地域デザインコースの実習フィールドワークとして、金沢の調査と金沢観光ガイド案作成とガイド実践を行った。 教育活動の振り返り 1 教育活動の成果: 学内でのガイド案発表に対して観光業経験者からのコメントをもらい、さらにガイド実践終了後に参加者からの意見を聞き、改良に改良を加えた最終ガイド案を作成した。学年末の学科における実習発表会で発表した。 今後の課題: 2年次の実習が、大学での学びの何処に位置しているかを周知させる必要がある。				
	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
総合社会学演習	講義・演習・実習・実験	春・秋	3名		
授業の概要: 観光学で重要な概念である「真正性」についての文献を読んだ後、「上演された真正性」を京都の「路地」に発見し、本来の路地との比較を行った。 教育活動の振り返り 2 教育活動の成果: 「真正性」に関する文献のまとめ、宇治・伏見の調査によって「生活路地」と「演出された路地」との相違を発見し、一方だけを推奨するのではなく、それぞれの良さを楽しむ観光を提案する冊子の作成と、発表を行った。 今後の課題: 観光系の学会における学生ポスターセッションでの発表に向けてまとめを行う。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/5)

<p>F D 活 動 実 績</p>	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 「長崎県立大学情報メディア学科主催FD研修会」において、2014年2月28日15:00 - 16:30に、長崎県立大学シーボルト校西棟 W102教室において、「1日フィールドワーク」の実践と可能性についてというタイトルで、講演を行った。</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 特になし。</p>
<p>H26 年度 研究課題</p>	<p>1. 観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築 2. 石川県金沢市における新幹線開通による観光への影響の調査 3. アートによるまちづくりの調査 4. 南太平洋フィジーにおける政治状況の調査</p>
<p>年度 の 研 究 活 動 の 概 要 (平成 二 十 六 (2014))</p>	<p>1. 7月開催の観光学術学会第3回大会において、フォーラムを開催した。8月末に札幌において、「北の観光リーダー育成ゼミナール」運営に関する調査、意見交換をおこなった。後述:(学会報告、学会活動)および(調査活動) 2. 新幹線開通による金沢の観光への影響に関しては平成27年3月13日から調査を開始している。 3. 平成26年8月に札幌において「北の観光リーダー育成ゼミナール」に関する調査をおこなった。 4. 課題であった選挙が行われ、バイナラマ首相が政権をとったことを確認した。</p>
<p>平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書) 1. 「観光人類学」『観光学ガイドブック 新しい知的領野への旅立ち』共編著、平成26年4月、ナカニシヤ出版 共著者：大橋昭一・遠藤英樹・神田孝治 pp.28-33 2. 「観光経験」同書 pp.132-137 3. 「みやげもの」同書 pp.234-237</p> <p>(論文) (学会報告、学会活動) 1. フォーラム「『産官学民の連携に基づく観光人材育成』に関する理論の構築に向けて」(開催)平成26年7月、観光学術学会第3回大会、京都文教大学</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) (調査活動) 平成26年 8月 「北の観光リーダー育成ゼミナール」運営に関するスタッフから聞き取り調査およびセミナーの立ち上げから関わった北海道大学・観光学高等研究センター・教授 敷田麻実氏との意見交換、於：札幌 平成26年8月・10月・11月・平成27年2月 「スポーツ観光」に関する調査(8月「北海道マラソン」、10月「大阪マラソン」、11月「神戸マラソン」、2015年2月「京都マラソン」)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成25年度-平成28年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(基盤研究C・一般)「観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築」(課題番号25501025)研究代表者</p> <p>(学内活動) 自己点検・大学院委員会委員、教職課程委員会委員、実習委員、観光・地域デザインコース主任</p>
<p>社会 に お け る 活 動 (平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 活 動)</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託) ・宇治市文化財保護委員「平16より」</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/5)

平成二十一年(二十五) (2009~2013) 年度の主な研究成果等

(著書)

- 『観光経験の人類学 みやげものとガイドの「ものがたり」をめぐって』、単著、平成23年2月、世界思想社、272p
- 「一日フィールドワーク」「フィールドでの謝礼・謝金」、単著、平成23年6月、世界思想社、日本文化人類学会監修、鏡味治也・関根康正・橋本和也・森山工共編、『フィールドワーカーズ・ハンドブック』(pp.37-60, 104-105)
- 「ポスト「ポスト・コロニアル」状況下のフィジー 四度目のクーデターのあとで」、単著、平成24年8月、風響社、須藤健一編、グローカリゼーションとオセアニアの人類学 (pp.183-211)
- 「ホカートの知的挑戦の現代的意味」、単著、平成24年12月、岩波文庫、王権(橋本和也訳:後述(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)1. pp.401-425)
- 「『地域文化観光』の可能性」、単著、平成25年7月、一般社団法人地方行財政調査会、第37回行財政研修会東京セミナー『観光を考える』講演シリーズ第112号 (pp.29-57)
- 「キリスト教とナショナリズム フィジー・イメージの出現」、共著(当該部分担当)、平成26年3月、風響社、杉本良男編、『キリスト教文明とナショナリズム 人類学的比較研究』国立民族学博物館論集2 (pp.243-262)

(論文)

- 「フィジーの国民スポーツ「ラグビー」」、単著、平成21年10月、国立民族学博物館監修、季刊民族学130号 (pp.40-45)
- 「「ポスト・『ポスト・コロニアル』」状況における軍事政権 フィジー、2006年ミリタリー・クーデターのその後」、単著、平成24年3月、京都文教大学 人間学部研究報告第14集 (pp.47-62)
- 「観光学の新たな展望 なぜ、いま「観光経験」なのか」、単著、平成25年3月、観光学術学会『観光学評論』第1巻1号 (pp.19-34)

(学会報告、学会活動)

平成20・21年度

- ・ 日本文化人類学会の『フィールドワーカー・ハンドブック』編集委員 (平成20・21年度)
- ・ オセアニア学会 評議委員 (平成21年度)

平成22年度

- ・ 「みやげものと観光経験 「ものがたり」の役割」、単独、平成22年6月、日本文化人類学会第44回研究大会、立教大学

平成23年度

- ・ 日本文化人類学会 評議員・座長、平成23年6月、日本文化人類学会第45回研究大会、法政大学
- ・ 日本文化人類学会博士論文発表会 座長(司会)、平成23年7月、立命館大学
- ・ 基調講演「観光人類学から見たスポーツ文化」、単独、平成23年10月、第13回生涯スポーツ学会研究大会、大阪経済大学

平成24年度

- ・ 「観光学の新たな展望 なぜいま「観光経験」なのか」、単独、平成24年7月、観光学術学会第1回大会 シンポジウム1「観光学の確立に向けて」、和歌山大学

平成25年度

- ・ 日本文化人類学会評議委員として、学会評議委員会に出席。
- ・ 観光学術学会の副会長として、理事会・評議委員会に出席。7月の第2回大会(於:奈良県立大学)には会長代理・発表会座長としての任務を遂行した。

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

書評:

- 「「宗教ツーリズム」研究の幕開け」、山中弘編著『宗教ツーリズム 聖なるものの変容と持続』、単著、平成25年9月、観光学術学会 観光学評論第1巻2号 (pp.227-230)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/5)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき) 翻訳： 1. A.M.ホカート著『王権』、単訳、平成24年12月、岩波文庫、425p 学術講演： 1. 「キリスト教とナショナリズム フィジー・イメージの出現」、単独、平成23年2月、国立民族学博物館共同研究「キリスト教文明とナショナリズム 人類学的研究」研究会
	(調査活動) 平成21年 8月 「観光経験の人類学 みやげもの・ガイドのものがたりをめぐって」の調査、於：横浜・鎌倉・江ノ島 平成23年 9月-10月 「2006年クーデター以後の政治状況について」の調査、於：フィジー諸島共和国 平成25年 3月 教会遺産の調査(個人研究費) 於：長崎県五島列島・長崎 平成25年 9月 九州ツーリズム大学・豊後田染荘の調査 (科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金課題番号25501025：後述) 平成25年 6月 石川県金沢市・湯湧温泉における観光調査(FW実習)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成25年度-(4年間) 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(基盤研究C・一般)「観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築」(課題番号25501025) 研究代表者 1. 共同研究会の開催(平成25年度内 3回) 2. シンポジウムの開催：「大学における地域・観光人材育成の課題と展望」、平成26年2月、キャンパスプラザ京都(京都文教大学サテライトキャンパス)
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度における活動	(学内活動) 平成12年 4月 大学運営委員会委員「平22.3まで」 平成18年 4月 大学教学委員会委員「平22.3まで」 大学予算委員会委員「平22.3まで」 自己点検・評価委員会委員「平22.3まで」 危機管理委員会委員「平22.3まで」 平成21年 4月 将来構想会議委員「平22.3まで」 就職委員会委員「平22.3まで」 平成22年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平23.3まで」 教務委員会委員「平23.3まで」 人間学研究所所員「平25.3まで」 平成23年 4月 就業力育成支援委員会委員「平25.3まで」 平成24年 4月 自己点検・大学院委員会委員「現在に至る」 自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員「平25.3まで」 学生委員会委員「平25.3まで」 平成25年 4月 教務委員会委員「平26.3まで」
	(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託) 平成16年 宇治市文化財保護委員「現在に至る」 宇治市産官学連携システム研究会産業振興部会部会長「平22.3まで」 (小中高との連携授業の講師) 平成25年 5月 京都文教高等学校ALP「観光の楽しみと、観光創造の楽しみ - 観光・地域デザインコースでの学び - 」、於：同校

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/5)

平成二十一～二十五 年度の社会における活動 (2009～2013)	<p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成25年 7月 一般社団法人地方行財政調査会 第37回行財政研修会東京セミナー「観光を考える」、 対象者：行財政研修会東京セミナー参加者、「『地域文化観光』の可能性」、於：帝国 ホテル</p> <p>(その他)</p> <p>平成20年-平成22年 宇治橋通り商店街で毎月「ええもん市」を開催</p> <p>平成23年 5月 京都文教教養講座「観光みやげの人類学」講師、「観光みやげの文化人類学に ついて」、於：京都文教大学</p>
---	---